

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.281

2016年10月

アジアの大学と4大学間学術交流協定を締結



目次

●ニュース

アジアの大学と4大学間学術交流協定を締結	3
第26回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2016を開催	4
重要文化財馬場家住宅研究センター公開講座を開催	5
リンナイ株式会社及び天野 浩未来材料・システム研究所教授へ紺綬褒章を伝達	6
文部科学省エントランスに本学の研究成果を展示	6
理系女性研究者の活躍促進シンポジウムを開催	7
吉林大学・唐敖慶クラス学生夏季研修を開催	7
名古屋大学職員採用職場説明会を開催	8
「3Dプリンタを使って臓器モデルを作ろう! 医用画像処理の体験」を開催	8
「JST フェア2016」及び「産学パートナーシップ創造展」に参加	9
第6回「企業と博士人材の交流会」を開催	9

●知の先端

持続可能社会に貢献できる触媒と化学を探す旅	10
齋藤 進 (大学院理学研究科教授)	

●知の未来へ

食をめぐる社会と自然の関係	12
伊賀 聖屋 (大学院環境学研究科准教授)	

●学生の元気

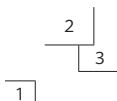
第70回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会	13
----------------------	----

●部局ニュース

テクノ・フェア名大2016を開催	14
グローバルディスカッション2016を開催	15
日本法教育研究センター夏季セミナーを開催	15
サマースクール「アジアの法と社会2016」を開催	16
第1回理学装置開発室公開講座「3D工房」を開催	16
未来エレクトロニクス集積研究センターシンポジウムを開催	17
ひので衛星10周年記念講演会「太陽観測から宇宙と地球を探る」を開催	17
第22回特別展「モンゴル大百科」を開催	18
ミクロの探検隊®を開催	18
●受賞者一覧	19
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成28年8月16日～9月15日	23
●イベントカレンダー	26
●表紙サークル紹介	27
●ちょっと名大史	
濃尾地震と愛知病院・愛知医学校の医療救護活動	28

アジアの大学と4大学間学術交流協定を締結





- 1 施設見学「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」の様子
- 2 調印式での記念撮影（左からラオス国立大学副学長、ハノイ工科大学長、総長、チュラロンコン大学副学長）
- 3 表敬訪問の様子

チュラロンコン大学（タイ）、ハノイ工科大学（ベトナム）、ラオス国立大学（ラオス）及び本学との4大学間学術交流協定調印式が、8月29日（月）、本学において執り行われました。

本学とそれぞれの大学は、すでに全学協定を締結しており、2013年には、チュラロンコン大学とハノイ工科大学との3大学間で学術交流協定を締結しましたが、今年4月に採択された日本学術振興会（JSPS）研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「ASEANにおけるコンパクトモビリティモデル研究拠点」が契機となり、本事業における研究交流を促進させ、より広い分野で学生や教職員の交流、共同研究の推進を図ることを目的に、新たな枠組みとしてラオス国立大学を加えた4大学間での学術交流協定の締結に至ったものです。

調印式では、はじめに松尾総長から「名古屋大学松尾イニシアティブNU MIRAI 2020」に掲げられている「アジアと学び世界に挑む人材の育成」において、4大学の連携が重要なプラットフォームになることが述べられました。続いて、ハノイ工科大学のホアン・ミン・ソン学長、チュラロンコン大学のポントーン・マラクン副学長、ラオス国立大学のプット・シンマラヴォン副学長のあいさつでは、今後の交流活動への期待がそれぞれ述べられました。



来賓として、ブイ・ヴィエット・コイ駐日ベトナム社会主義共和国大使館参事官・科学技術部長、ナッタポン・ラッタピパット在東京タイ王国大使館公使参事官にご列席を賜り、本学から渡辺理事、財満副総長、磯田アジアサテライトキャンパス学院長をはじめ、関係部局の教職員、各大学からの留学生の立ち会いの下、4大学が協定書にそれぞれ署名し、本協定が締結されました。

この後に行われたJSPS事業のキックオフミーティングでは、市野未来社会創造機構モビリティ領域長のあいさつの後、原口同副領域長から本事業の概要と今後の交流活動に関する説明があり、4大学から合計9名の研究者による研究発表が行われました。

調印式に先立ち行われた施設見学では、8月にハノイ工科大学で開催された博士課程教育リーディングプログラ

ム「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」のサマースクールに参加した学生から、現地での交流活動で学んだことなどが報告されました。また、当日、学内で開催された懇親会においても、各大学からの留学生から、本学での研究生生活についてスピーチが行われるなど、一連の行事には学生・留学生との懇親も交え、終始和やかな雰囲気の中、盛況のうちに終了しました。

今後は、各大学でのセミナーの開催や、研究者や学生の交流を通じて、より一層活発で幅広い分野での連携を深めていき、本学をハブとした学際的な学術交流のプラットフォームを形成することで、新たな学術領域の創出や世界の舞台で活躍するグローバル人材の育成の促進につながることが期待されます。

第26回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2016を開催



家族連れの来場者に ChubuSat 2 の説明をする大学院生（写真左）

第26回英国科学実験講座クリスマス・レクチャー2016が、8月21日(日)、豊田講堂において開催されました。

これは、英国王立研究所が1825年から毎年クリスマス時期のロンドンで開催している、歴史ある子ども向けの科学実験講座です。日本では、ロンドンで開催した翌年、日本向けに少しアレンジを加えて開催しています。日本公演は平成2年から夏に開催しています。本学で開催されるのは平成25年に続き、今年で2回目となります。今年の実験講座は午前と午後の2回開催され、計1,003名の方が来場しました。

講演冒頭に、渡辺理事から開催のあいさつがあった後、航空宇宙医師のケビン・フォン氏をメインゲストに迎え、「宇宙でいかに生き抜くか」と題し、実験講座を開催しました。講座の中では参加者からボランティアを募集しイベントに参加する形で進行し、宇宙に関わる様々な実験が行われました。田中秀孝工学研究科特任教授も講師として参加し、スペースデブリと呼ばれる、高速で地球近辺を漂うゴミから宇宙ステーションの人々を守るバンパーの仕組み



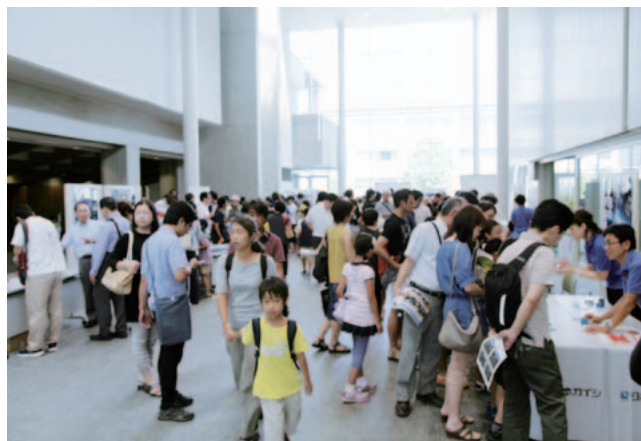
バンパーの仕組みを実験で紹介する田中特任教授（写真右）



ボランティアと一緒にロケットと自転の実験を行うケビン・フォン氏

を紹介しました。

豊田講堂ホワイエでは三菱重工株式会社が提供するバンパーの展示、協賛企業の日本ガイシ株式会社による体験ブース、博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム（フロンティアLGS）」による超小型衛星 ChubuSat 2 の実物大模型の展示、本学の学生サークル名古屋大学宇宙開発チーム NAFT による体験ブースや名古屋女子大学の宇宙食のブースなどがあり、小さな子どもたちにも宇宙にまつわる技術が体験できる貴重な機会になったようです。



豊田講堂ホワイエの様子

重要文化財馬場家住宅研究センター公開講座を開催



公開講座の会場風景（木俣センター長のあいさつ）

重要文化財馬場家住宅研究センター平成28年度公開講座「馬場家文書と馬場家住宅が語る文化と歴史－遺産の魅力」が、9月10日（土）、松本市立博物館分館・重要文化財馬場家住宅において開催されました。この講座は、遺産に関する研究を進める同センターが、松本市教育委員会との共催で、地域貢献の一環として毎年、松本市で開催しているものです。今回の講座は、同センター発足の契機となった重要文化財馬場家住宅に焦点を当て、そこに残された古文書と建物が語る文化と歴史を考え、無形・有形の遺産の魅力を再発見する講座としました。

当日は、重要文化財馬場家住宅において、まず、石川 寛同センター特任准教授による講演「高島藩主の巡見と馬場家」と愛知県立大学講師である服部亜由未同センター招へい教員による講演「明治初期の旧婚旅行－馬場家12代当主夫妻の旅をたどって」が行われました。その後、28名の参加者が2班に分かれて、建物を見学しながら、建物の魅力を確認しました。そして、最後に「私が選ぶ馬場家住宅の魅力」と題して、参加者が選ぶ建物の魅力を1人3ヶ所選

び、投票を行いました。その結果、「馬場家住宅表門と全景」が1位となり、参加者の皆さんが馬場家住宅のみならず、周辺を含んだ地域の風景に魅力を感じていることが明快になりました。

当日は天候に恵まれ、建物外観の見学では、青空に映える建物と庭、さらに北アルプスの山並みを参加者一同が堪能しました。

また、これに合わせて9月1日（木）から9月15日（木）まで、重要文化財馬場家住宅にて、同センターの研究成果を「遺産としての馬場家住宅一文書・建物・周辺環境」と題するパネル展示で紹介しました。今回の公開講座に関する文書と建物の魅力のみならず、今年3月に実施した教育貢献事業「遺産としての環境－馬場家住宅と周辺環境を認識する」の成果を伝える展示としました。



重要文化財馬場家住宅見学会の様子



「私が選ぶ馬場家住宅の魅力」で1位となった馬場家住宅の表門

リンナイ株式会社及び天野 浩未来材料・システム研究所教授へ 紺綬褒章を伝達

平成27年1月に内藤弘康リンナイ株式会社代表取締役社長から、また、平成27年2月には、天野 浩未来材料・システム研究所教授から名古屋大学基金へ多額の寄附をいただきました。この寄附は紺綬褒章の授与対象となり、内閣府で閣議決定され、公布されました。

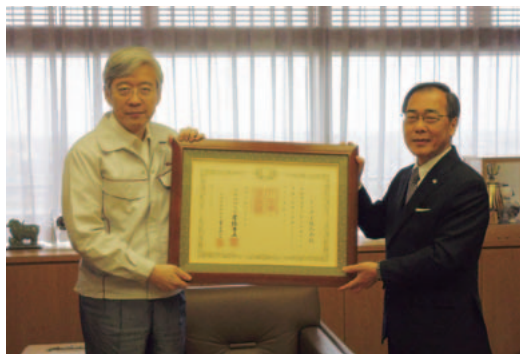
これを受けて、8月5日(金)に松尾総長がリンナイ株式会社を訪れ、内藤代表取締役社長に紺綬褒章(褒状)の伝達を行いました。

また、9月7日(水)には、総長応接室において、総長か

ら天野教授に紺綬褒章(褒章、褒状及び賞杯)の伝達を行いました。

紺綬褒章とは、公益のために私財(個人500万円以上、団体1,000万円以上)を寄附した方に授与されるものです。

名古屋大学基金は、いただいた募金を運用し、その運用益で、本学の国際化のために重点的に活用しています。今後とも引き続きご支援くださいますよう、お願い申し上げます。



内藤社長への伝達の様子



天野教授への伝達の様子

文部科学省エントランスに本学の研究成果を展示

6月29日(水)から8月26日(金)までの間、文部科学省新庁舎(東館)2階エントランスにおいて、本学の研究成果に関する展示を行いました。この展示は、文部科学省を訪問する方々に向けた最先端かつ最新の情報発信の場として、文部科学省が実施しているものです。

今回の展示は、事前に申請のあった新学術領域研究「プ

ラズマ医療科学の創成」の研究成果と、未来社会創造機構による「生体成分の超高精度分離・検出を実現するガラスチップ」の2件を行いました。新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」では、国立研究開発法人産業技術総合研究所の止血用大気圧プラズマ装置の展示、領域代表の堀 勝未来社会創造機構教授による講演映像の放映、大気圧プラズマによる止血、がん治療、遺伝子導入における成果のポスターパネルを展示しました。「生体成分の超高精度分離・検出を実現するガラスチップ」では、旭硝子株式会社と本学が開発した、飛沫唾液等の生体成分を高速・高精度でフィルタリングする孔あきガラスチップ本体の展示と、研究成果のポスターパネルを展示しました。

また、8月5日(金)と8月26日(金)には、文部科学省旧庁舎1階の情報ひろばラウンジにおいて、それぞれの展示に関する一般市民向けの講演会も開催されました。期間中は、エントランスホール内での展示ということもあり、文部科学省を訪れる方々が展示物を見学する様子が数多く見受けられました。



展示の様子

理系女性研究者の活躍促進シンポジウムを開催

理系女性研究者の活躍促進シンポジウムが、8月23日(火)、豊橋技術科学大学において開催されました。同シンポジウムは、本学が名古屋市立大学及び豊橋技術科学大学とともに文部科学省「女性研究者研究活動支援事業【連携型】」事業の取り組みの一つです。同シンポジウムは、女性研究者がとりわけ少ない理系分野において、女性の採



3大学の総長・学長による討論会

用・登用を促進させるべく、現状分析及び意識啓発を目的としています。

昨年度に引き続き2回目の今年度は、松尾総長、郡健二郎名古屋市立大学長及び大西 隆豊橋技術科学大学長が揃って討論会に登壇し、各大学における女性研究者増員のための取り組みについて説明された後、課題や問題点などについて活発に議論されました。

また、川上知紀トヨタ女性技術者育成基金事務局長及び山村康子科学技術振興機構プログラム主管による来賓あいさつ、西川恵子日本学術振興会監事による基調講演「女性活躍の現状と未来」も行われました。

【連携型】では、女性研究者の研究力向上及び上位職への登用を支援するために、AICHI 女性研究者支援コンソーシアムを形成し、「あいちから日本へ、世界へ！」と題し、地域の産官学連携による女性研究者支援を行っています。同シンポジウムの他にも、女性研究者リーダーシップ・プログラム、トヨタ・女性研究者インターンシップ制度、研究力強化セミナー、共同研究助成制度、英文校閲費用助成事業など、多岐にわたる取り組みにより、女性研究者をエンカレッジしています。

吉林大学・唐敖慶クラス学生夏季研修を開催

本学の協定校である中国・吉林大学の「唐敖慶クラス」夏季研修が、8月1日(月)から15日(月)までの間、本学において開催されました。「唐敖慶クラス」は吉林大学物理学院の優秀選抜クラスで、今回このクラスから物理学を学ぶ学部学生6名と引率教職員2名が研修に参加しました。研修期間中に理学研究科と工学研究科の13研究室を訪れ、



渡辺理事と吉林大学からの参加者

本学の最先端の研究活動を学ぶとともに、研究室での実験などにも参加しました。また本学教員や学生らの説明を受けながらノーベル賞展示室や赤崎記念研究館なども見学し、本学の研究実績について専門的な知識を深めました。

研修では本学の講師による日本語・日本文化講座も行われ、参加学生たちは日本語の基礎を学ぶとともに、中国と比較した日本の文化事情に関する講義も受けました。着物の着付けなどの日本文化体験も行われ、学生たちは着物や浴衣に嬉しそうに袖を通してお互いに記念写真を撮り合う場面もありました。この他にも犬山城や名古屋城への観光やトヨタ産業技術記念館などを見学し、中部地方の歴史や産業にも触れました。

研修終了時には報告会が行われ、参加学生からは「短い期間だったが13もの研究室に招いてもらえ、大変勉強になった」、「名古屋大学の自由闊達な学風と研究レベルの高さを実感できた」、「将来は名古屋大学に留学したい」、「以前から憧れていた日本文化を体験できる素晴らしい研修だった」などの感想が述べられました。続く修了式では渡辺理事から研修に参加した学生一人ひとりに修了証が手渡されました。

名古屋大学職員採用職場説明会を開催

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の合格者を対象とした名古屋大学職場説明会が、9月14日(水)、豊田講堂において開催されました。

はじめに、豊田講堂ホールにおいて松尾総長のあいさつの後、竹下事務局長による大学概要の説明や、今後の面接等の日程について説明がありました。

引き続き、シンポジオンホール、会議室等に会場を移し、教務・学生サービス、総務・広報、国際交流、研究協力・社会連携、企画・評価、財務・経理、病院・医療支援、施設管理(電気、機械、建築)の8つのブースに分かれ、各

所属の担当者による個別業務の内容紹介が入替制で行われました。

さらに、先輩の経験を伝えるコーナー、勤務条件・福利厚生・研修等の処遇説明コーナーが設けられ、参加者からの具体的な質問に職員が個別に対応しました。

当日は、天候にも恵まれ、230名を超える参加があり、それぞれ真剣に説明を聞き、メモをとる姿が見受けられました。

また、学術情報サービス(図書)、教室系技術(電気、機械、電子・情報、生物・生命科学等)については、実際の職場に場所を移して業務説明が行われました。



先輩の経験を伝えるコーナー



各担当者による業務説明

「3Dプリンタを使って臓器モデルを作ろう! 医用画像処理の体験」を開催

「日本学術振興会ひらめき★ときめきサイエンス『3Dプリンタを使って臓器モデルを作ろう! 医用画像処理の体験』」が、8月18日(木)、19日(金)の両日、IB電子情報館において開催されました。このイベントは文部科学省科学研究費補助金「多元計算解剖学」における研究を中学生に知ってもらうために行われたイベントで、14名の中学生が



医用画像処理の体験の様子

参加しました。

イベントでは、森 健策情報基盤センター教授によるイベント解説の後、伊神 剛医学部附属病院病院講師によるCT画像の読み方の解説、小田昌宏情報科学研究科助教による画像処理手法の解説が行われました。その後、参加者それぞれがコンピュータに向かいながら医用画像処理の課題に取り組み、3Dプリンタで造形する臓器モデルのためのデータを作成しました。そして、3Dプリンタにより臓器モデルを造形する作業を行いました。一晩かけて臓器モデルを3Dプリンタにて造形したのち、後加工などの方法について実習を行いました。さらに、後加工における待ち時間などを利用して、手術ナビゲーションシステムの体験や同センターに設置されたスーパーコンピュータの見学などを行いました。イベントの最後には、未来博士号贈呈式も行われました。本イベントを通じて「多元計算解剖学」と呼ばれる新しい学術領域の一端に触れることができ、本学における学術研究の一部を知ってもらう機会になりました。

「JST フェア2016」及び「産学パートナーシップ創造展」に参加

文部科学省主催、科学技術振興機構（JST）共催の「JST フェア2016」及び「産学パートナーシップ創造展」が8月25日（木）、26日（金）の両日、東京ビッグサイトにおいて開催されました。JST フェアは、「未来の産業創造」を目指した将来の社会・経済に貢献する革新的基礎研究事例や産学連携成果による製品化事例などを紹介するものです。



ドライビングシミュレーター体験の様子

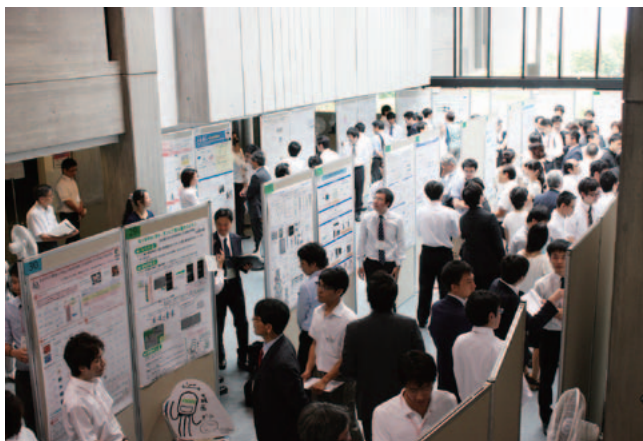
本学は、未来社会創造機構のCOIプログラムから、高齢者が安全に安心して移動できる社会の実現を目指した研究として、ドライビングシミュレーターやプリウス（自動運転・実車）を展示し説明しました。また、創造展はイノベーション創出に向け、今後の産学連携による本格的な共同研究について、選考された20の国公私立大学の取り組みを紹介し、産業界とのお見合いの場として実施されました。これは大学と産業界が新たなパートナーシップを創造し、これまでにない新しい価値の創出と、産学官の「本気の」共創が、広くアカデミア全体に浸透する狙いがありました。本学は、大学全体で組織的に進めている大型共同研究事例を4つ紹介し、①窒化ガリウム（GaN）研究拠点の整備（IMaSS）、②熱可塑性CFRPの開発（NCC）、③プラズマが拓く《産業、医療、農水産》イノベーションの推進（PNRC）、④ICT活用農業事業化・普及プロジェクト（本学はじめ14機関）の研究について展示しました。

2日目には、財満副総長が「本学の本格的産学連携への取組～特色ある共同研究～」と題し、従来とは全く異なるスキームを導入を計画している共同研究制度について講演し、立ち見で人垣ができるほど来場者の関心を受けました。

第6回「企業と博士人材の交流会」を開催

「企業と博士人材の交流会」が、8月27日（土）、豊田講堂において開催されました。本交流会の開催は、今年で6回目となり、社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターによって開催されました。

第1部「ポスターセッション」では、参加博士人材（博士後期課程学生やポストドクター等）64名が、自らの研究



企業の参加者と活発に議論を行う博士人材

内容のプレゼンテーションを通じて、企業からの参加者へ自己PRを行いました。学会での発表とは異なり、様々な分野の方、自身と専門が異なる方に説明しなければならぬため、ポスターのデザイン、説明の仕方など、それぞれ工夫しながら熱心に議論を行う姿が印象的でした。また、ポスターセッションにて優秀だった方を企業参加者に投票していただき、ポスター発表者3名が表彰されました。

第2部「交流セッション」には、博士人材の採用を希望する企業50社に対して、111名の博士人材が参加しました。企業プレゼンテーションの後、博士人材が興味ある企業のブースを訪問し、博士人材に対する期待とニーズ、企業の業務内容、企業動向、博士の活躍状況等に関して情報交換を行いました。自社の企業ブースへ博士人材を呼び込む企業参加者の姿も見られ、企業の博士人材に対する期待が非常に高まっている様子が感じられました。

また今年度は、リーディングプログラム担当教員と企業参加者が、企業が求める博士人材、今後の大学院教育のあり方等について意見交換を行いました。本交流会での出会いを足がかりに、産業界における博士人材の活躍の場の拡大や産学共同研究の発展につながることを期待されます。

持続可能社会に貢献できる触媒と化学を探す旅

齋藤 進 大学院理学研究科教授

私たちの生活は石油などの化石資源によって支えられています。燃料だけではなく、身の回りのあらゆる有機物質の原料です。それゆえに石油文明とも呼ばれています。しかし化石資源への過度の依存には大きな問題があります。限りある資源（枯渇資源）であるとともに、節度に欠けたその乱用は温室効果ガスのひとつである二酸化炭素（CO₂）の発生を増加させ、地球環境に悪影響を与えています。地球温暖化によってこれまでにない強い台風や豪雨が日本を襲うとも言われています。2007年のノーベル平和賞に輝いたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）はその後も警鐘を鳴らし続けています。地球の平均気温があと2-4℃上昇（最悪のシナリオでは2100年に最大4.8℃上昇）すればここ名古屋でも相当な土地（地表面積）が水没するとのシミュレーション結果もあります。危機的ともいえるこの状況の打破と持続可能社会に微力ながら触媒と化学の力で何か貢献できないか、と日々考えながら研究を行っています。更なる叡智に基づき枯渇資源を有効利用し

ていくことも重要ですが、資源や燃料を多様化することも一案です。

そのなかで近年、注目されているのは再生可能資源への一部転換です。再生可能資源は主に光合成に使われるCO₂が植物によって固定化されたものです。植物がその体を作るのに要したCO₂（植物によって生産された炭素化合物の量に相当）の範囲内で炭素資源を人間が使うのであれば、たとえそれらが人間の使用後に廃棄・燃焼されCO₂に戻ったとしても植物がCO₂を固定化できる範囲内を超えない、という理想的な考え方があります（カーボンニュートラル）。この理屈のうえでは、植物が固定化できないほどの余剰の温室効果ガスCO₂の大気中での残存や停留を比較的避けることができます。

このような理念に基づき、我々は、植物から人工的にも大量生産可能なバイオマス資源由来の物質、およびCO₂の化学変換法の開発を行っています（図1）。その際に鍵となるのが新触媒の開発と水素マネジメントです。触媒（エンジン）を

働かせるためのエネルギーとしては熱と光、両者を使い分けます。（金属）塩廃棄物の排出を抑えるために水素マネジメントが必要です。その一端のみここでは紹介します。例えばカルボン酸を水素化しアルコールへと変換できる分子性の触媒（分子触媒）です（図2）。熱エネルギーを利用したシステムです。

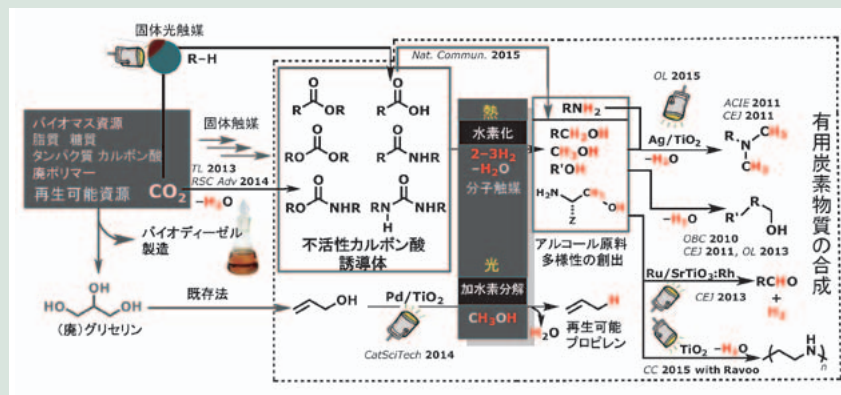


図1 触媒的水素マネジメントに基づく再生可能資源の化学変換の例。
点線内が筆者らの最近の研究成果の概要

カルボン酸は天然に豊富に存在し、CO₂からも合成できます。工業的に大量生産する研究も進んでいることから、再生可能資源として注目され、アルコールに変換するための研究が世界中で行われてきました。アルコールは、少ないエネルギーで燃料や医薬品、農薬や化粧品の原料にもなります。使い道は多種多様ですが、カルボン酸をアルコールに変換する方法の一つが「水素化」です。水素分子(H₂)の結合を切って、2つの水素原子を両方とも反応物質に結合させます。ここではカルボン酸に水素原子を付けることを指します。水しか排出しないクリーンな反応です。しかしながらそこには大きな問題がありました。カルボン酸はエネルギー的に非常に安定した構造の物質で、固体触媒を使用し、200℃以上の高温や、100気圧ほどの高水素圧にしないとアルコールに変換できないと信じられていました。多大なエネルギーを必要とするうえに、変換できるカルボン酸の種類も限られていました。温度を上げると余計な反応を誘発して副生成物が多くなり、アルコールだけを取り出すには手間がかかります。我々の発見はこれらの課題を大幅に解決し、より省エネ(110-160℃程度、5-60気圧程度の水素圧)・省資源性でカルボン酸をアルコールへと選択的に変換する分子触媒の基盤「触媒構造の原型」を提供しました(例え

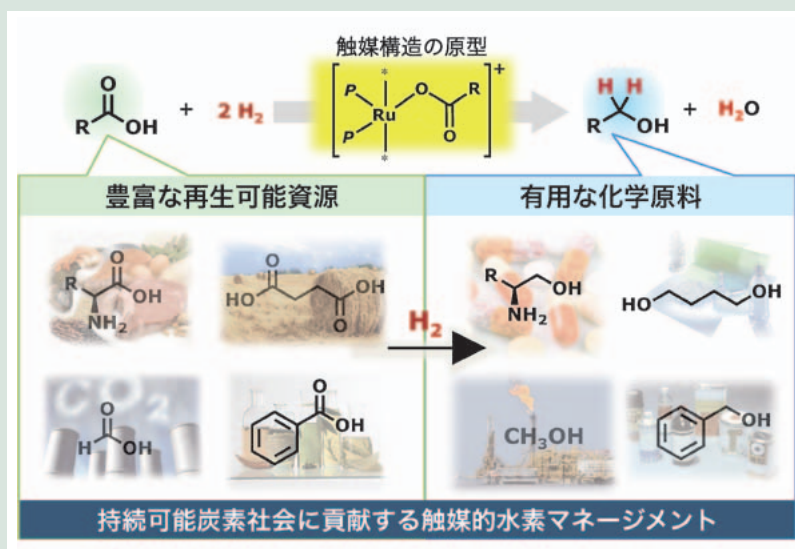


図2 カルボン酸の触媒的水素化を大幅に進展させた触媒構造の原型

ば *Nat. Commun.* 2015)。今後この原型を応用してさらなる高活性・省エネ触媒が開発され実用化されることが大いに期待されます。

熱を使う固体触媒はいわば力技で相手をねじ伏せるような触媒です。石油に含まれる炭素原子が連なった分子をブチブチと切っていくような反応を得意とします。一方、分子触媒は、ある分子のある結合を一つだけ切って貼るといった精密な反応を起こせるのが利点です。それぞれには強みと弱みがあります。今後は分子と固体の良いところりした触媒が理想的ではないでしょうか。植物の光合成とは一味違った人工的な「光エネルギーを利用した合成」、例えばCO₂からカルボン酸やアルコールなどの有用炭素物質への変換を促進する、分子と固体のハイブリッド光触媒を今後発見し発展させていく予定です。

1969年岡山県生まれ。1995年名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程 応用化学および合成化学専攻 単位取得退学、同年同大学工学部生物機能工学科助手、1998年 名古屋大学博士(工学)、2002年名古屋大学高等研究院および大学院理学研究科物質理学専攻助教授(現准教授)、2015年より現職。この間、2004年京都大学化学研究所客員助教授、2009年九州大学先端物質化学研究所非常勤講師、2009年 ACP Award Lecturer, Taiwan & China、産産学共同研究 PI (2008-、2010-、2013-)、ACT-C (JST) PI (2012-)、WPI-ITyM CI (2013-)。

専門：有機化学一般、特に分子触媒化学、有機合成化学、有機金属化学、光触媒化学。焦点は(金属)塩廃棄物を極力抑える触媒的合成化学「触媒的水素マネジメント」に基づくCO₂変換、水素化/脱水素化、水和/脱水、炭素-炭素、炭素-窒素、炭素-酸素結合形成反応の開発。

趣味：スポーツ一般(するも観るも)、読書、ピアノ演奏、将棋。
モットー：臥薪嘗胆、国家百年の計、事実は真実の敵なり

さいとう すずむ



伊賀 聖屋
大学院環境学研究科准教授

食をめぐる社会と自然の関係

インドネシアの首都ジャカルタから飛行機で2時間少々のところ、スラウェシという島があります。島最大の都市マカッサルから車で北へしばらく行くと、そこにはインドネシアの沿岸部がよく目にする風景が広がっています。煌めく水面、網をひく青年、マングローブの木々。この島では私たちがよく口にするエビの養殖が盛んにおこなわれているのです。

エビの養殖は稚エビを池に放つことから始まります。それがある程度の大きさまで成長すると、収穫され、市場へと出荷されてゆきます。では、そもそもその稚エビはどこからやってくるのでしょうか。スラウェシの場合、多くは島内に複数あるハッチェリー（孵化場）という施設で生産されています（親エビは「ハワイ産」）。このハッチェリーには、「エビの交尾・産卵に適した状況」を再現可能な池が設置され、24時間体制で飼育管理がなされています（図1）。自然の状況に近い環境が人工的に整備されているわけです。もちろん、以前からこのような施設がスラウェシで存在していたわけではありません。そう遠くない昔、

養殖業者らは、潮の満ち引きを利用して稚エビを池に入れたり、あるいは、漁師が海辺で採集した稚エビを池に放流したりしていました。今でもスラウェシには、天然の稚エビを採集して、養殖池に販売する人たちが僅かながら存在しています（図2）。

一口にエビの養殖といっても、その担い手たちの自然への関与の仕方は様々であり、時代とともに変化してきたことがわかります。私はこれまで、グローバル経済下で生み出されるローカルレベルでの多様な空間に関する研究を行ってきましたが、このような自然に対する人々の関わり方の差異や変化も、グローバル化の進展に伴う多様な空間の生成と少なからず関係しているのではないかと考えています。そして、「社会と自然との結び目にあり、両者の相互関係が鮮明化する場」である食の領域に焦点を当てることで、何らかの示唆が得られるのではないかと考えています。このような作業は、現代社会においてそのあり方が問われている人間・自然・技術の関わりを考える上での一助となると考えています。



図1 ハッチェリーの内部（Lotand Salo 村）



図2 天然稚エビの採集風景（Minanga Kae 村）

第70回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会

第70回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会（名阪戦）が、主に5月から7月の土・日曜日に大阪大学を当番校として開催されました。今年度は男子31種目、女子12種目を実施し、大阪大学の運動施設を主な会場として熱戦が繰り広げられ、両校の学生は本大会を通して互いに競技のレベルを高め合うとともに交流を深めました。

大会は9月に最終種目を終え、男子が13勝15敗3分け、女子が7勝5敗、総合成績では20勝20敗

3分けで、接戦の末、引き分けとなりました。

今大会の結果で、本学の大会通算成績は、男子が21勝44敗5分け、女子が23勝35敗7分けとなりました（総合成績の制度が導入された第20回から今回までの総合通算成績は、本学の19勝28敗4分け）。

なお、本学が来年度の全国七大学総合体育大会の主管校となるため、来年度の名阪戦も大阪大学が当番校となり開催されます。

第70回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会対戦結果表

種目	対戦結果		種目	対戦結果		種目	対戦結果	
	名大	阪大		名大	阪大		名大	阪大
アーチェリー	不開催		漕艇	○	×	アーチェリー	不開催	
アイスホッケー	○	×	ソフトテニス	○	×	弓道	○	×
アメリカンフットボール	○	×	ソフトボール	×	○	剣道	○	×
空手道	○	×	体操	×	○	硬式テニス	×	○
弓道	×	○	卓球	×	○	漕艇	○	×
剣道	×	○	バスケットボール	×	○	ソフトテニス	○	×
航空	○	×	バドミントン	×	○	体操	不開催	
硬式テニス	×	○	バレーボール	○	×	卓球	○	×
硬式野球	○	×	ハンドボール	○	×	バスケットボール	○	×
ゴルフ	引き分け		フィギュアスケート	○	×	バドミントン	×	○
サッカー	引き分け		ライフル射撃	×	○	バレーボール	○	×
自動車	×	○	ラグビー	×	○	フィギュアスケート	×	○
柔道	引き分け		ラクロス	×	○	ラクロス	×	○
準硬式野球	○	×	陸上競技	×	○	陸上競技	×	○
少林寺拳法	×	○	相撲	○	×	女子成績	7勝	5勝
水泳	×	○	男子成績	13勝	15勝	総合成績	20勝	20勝
スキー	○	×						

(引き分け3)



アメリカンフットボール



バスケットボール女子



ハンドボール



航空

テクノ・フェア名大2016を開催

●大学院工学研究科



新美研究科長による主催者あいさつ

大学院工学研究科は、9月2日(金)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて、大学院医学系研究科、大学院環境学研究科、大学院情報科学研究科、大学院創薬科学研究科、トランスフォーマティブ生命分子研究所、未来材料・システム研究所、シンクロトロン光研究センター、減災連携研究センター、ナショナルコンポジットセンター、未来社会創造機構、予防早期医療創成センター、学術研究・産学官連携推進本部との共催で、「テクノ・フェア名大2016」を開催しました。

テクノ・フェア名大は、本学研究者による研究成果及び研究シーズ(種)を、ブース展示、研究室見学、講演会等を通じて情報発信し、産業界や地域社会と密接な交流を図ることを目的に、平成11年から実施しています。

当日は、主催者を代表して新美工学研究科長からあいさつがあった後、西山崇志学術研究・産学官連携推進本部教授から「名古屋大学発のオープンイノベーション ～『お付き合い』の産学連携から『本格的な産学共同研究』へ～」と題した基調講演が行われ、本学の産学官連携の現状や新



西山教授による基調講演

たな共同研究制度の取り組み等について講演がありました。

引き続き、今回初の試みとして、当日のブース展示のうち16のテーマについて、出展者が研究内容を紹介するショートプレゼンテーションが行われました。1テーマ5分という短い時間でしたが、訪れた参加者は熱心に耳を傾けていました。

豊田講堂アトリウムで実施されていたブース展示会場では、「材料」、「環境」、「エネルギー」、「機械・航空」、「土木・インフラ」などの分類で45のブースが出展され、訪れた企業の研究開発担当者らとブース出展者との意見交換は、終日途絶えることがありませんでした。また、並行して行われた研究室見学には、ブース展示やショートプレゼンテーションに興味を持った参加者が、当日申込で見学を希望する姿が多数見受けられました。今回の参加者は、約400名となり、盛況のうちに閉会しました。



ショートプレゼンテーションの様子



ブース展示の様子

グローバルディスカッション 2016を開催

●教育学部附属中・高等学校

8月22日(月)、23日(火)の両日、教育学部附属中・高等学校において、グローバルディスカッション 2016が開催されました。この企画は、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業と同校のスーパーグローバルハイスクールとが連携して実施しているものです。東京学芸大学附属国際中等教育学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、神戸



TA とのディスカッションの様子

大学附属中等教育学校、海陽中等教育学校と同校から総勢21名の高校生が参加しました。今年度は、「移民を受け入れよう。－それまでに私たちがしておくこと－」をテーマとして、本学の留学生11名が、ティーチング・アシスタント(TA)としてファシリテータとなり高校生のディスカッションを牽引しました。

ディスカッションは5つのグループに分かれて、すべて英語で行われ、慣れない専門用語が飛び交う中、高校生は悪戦苦闘しながらもグループでの意見をまとめあげていました。南部生協での夕食会では、参加した高校生と留学生が、和気あいあいと楽しそうに会話をしている様子が印象的でした。23日(火)の午後には、2日間のまとめとして各グループ20分の英語発表を行い、グローバルディスカッション 2016 をマネジメントした経済学研究科の土井康裕総長補佐から各グループに対してコメントがありました。参加した生徒からは、「今回のテーマは難民や移民という非常にタイムリーなものであり社会が抱えていく最も重要な検討課題だったので、自分の意見をまずは明白にして、どのように課題解決するのかをチーム全体で協力して考えることができた」など前向きな感想が多く聞かれました。

日本法教育研究センター夏季セミナーを開催

●大学院法学研究科、法政国際教育協力研究センター

大学院法学研究科及び法政国際教育協力研究センターは、8月17日(水)から28日(日)までの間、名古屋及び東京において、日本法教育研究センター夏季セミナーを開催しました。

本セミナーは今年度で11回目の実施となり、ウズベキスタン・モンゴル・ベトナム(ハノイ・ホーチミン)・カン



記念撮影

ボジアのセンターにおいて日本語で日本法を学んでいる大学3年生のうち、選抜試験に合格した合計24名の学生が来日しました。

名古屋でのセミナーでは、大学での法学講義の受講に加え、名古屋地方裁判所、笠松刑務所、株式会社十六銀行を訪問し、論文発表会、討論会、ホームステイ等で日本人との交流も行いました。その後の東京では、国会議事堂、国立国会図書館、総務省、防衛省、法律事務所を訪問し、日本の法制度について学びました。

本セミナーに参加した学生は、多くの知識を獲得し、日本法の学習意欲をさらに強くして、日本の大学院へ留学したいという気持ちを高め、帰国の途につきました。

また、今回のセミナーには、公益財団法人森村豊明会、株式会社十六銀行、公益財団法人国際商事法センター、弁護士法人アンダーソン・毛利・友常法律事務所様から御支援をいただき、そしてホームステイにおいては、日越友好愛知県議会議員連盟、蟹江町かえ国際交友会の会、一宮市国際交流協会、幸田町国際交流協会の皆様にご受け入れていただきました。

サマースクール「アジアの法と社会2016」を開催

●大学院法学研究科、法政国際教育協力研究センター

大学院法学研究科及び法政国際教育協力研究センターは、8月22日(月)、23日(火)の両日、アジア法交流館2階アジアコミュニティフォーラムにおいて、サマースクール「アジアの法と社会2016」を開催しました。本サマースクールは、次世代のアジア諸国法研究者や法整備支援の担い手を育成することを目的としており、法務省、公益財団法人



小畑センター長の講演の様子

国際民商事法センター、慶應義塾大学等との連携企画「アジアのための国際協力 in 法分野」の一環として開催されました。

1日目は、国際経済法、インドネシア及びASEAN専門家から、変動するアジアの法と社会について、また、専門家として法整備支援に実際に携わっている検事及び弁護士から、自身のキャリアと法整備支援についての紹介がありました。2日目は、小畑同センター長から、本学がアジア7ヶ国8ヶ所に設置した日本法教育研究センターが挑戦する、法整備支援のための人材育成を紹介し、2週間の短期研修「夏季セミナー」のために来日した日本法教育研究センターの学生と各国の社会・法的問題について討論をしました。本会合には、名古屋地方検察庁・弁護士をはじめとする法曹関係者、大学教員・学生など、70名を超える参加がありました。本サマースクールでは、法整備支援に関する様々な課題が明らかになり、12月3日(土)に慶應義塾大学において開催される「法整備支援シンポジウム」にて学生グループによる研究発表が予定されています。

第1回理学装置開発室公開講座「3D工房」を開催

●大学院理学研究科

大学院理学研究科では、8月18日(木)、東山キャンパスにおいて、理学装置開発室初の公開講座を開催しました。本講座は、同研究科や博士課程教育リーディングプログラム「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」などで行われている最先端の科学研究や、装置開発室の研究支援を広く一般の方に興味を持ってもらうことを目的に開催



3Dプリンタ講習の様子

したもので、理学装置開発室の技術職員で講座の企画から運営までを行いました。

今回は「3D工房～名大の研究活動体験～」をテーマとして、一般の方が3D-CAD (SolidWorks) を操作してモデリングを行い、モデリングを3Dプリンタで造形する製造工程を体験しました。

受講生は、3つ(①万力、②メモ立て、③コースター)の中から造形したいものを各自1つ選び、初めての3D-CADの操作に戸惑いながらも楽しくモデリングをしました。そして、自分達がモデリングした形に、3Dプリンタが少しずつ造形している光景を観察し、実際に形になったものを手に取り楽しんでいました。技術職員による説明を熱心に聞いている様子から、一般の方の3D-CADや3Dプリンタへの関心の高さを感じることができました。

今回は、小学生から社会人まで幅広く参加しました。実習形態の講座であることから定員は6名と少人数ですが、少人数だからこそ各受講生に対して印象強い講座にすることができました。第1回の経験を踏まえ、よりよい講座にして第2回に繋げていく予定です。

未来エレクトロニクス集積研究センターシンポジウムを開催

●未来材料・システム研究所

未来材料・システム研究所は、9月9日(金)、ES総合館において、大学の機能強化を促進する取り組みの一環として、窒化物半導体に関する国際シンポジウムを開催しました。主催する同研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センターは、天野 浩同研究所教授をセンター長とし、窒化ガリウム (GaN) などのポストシリコン材料を用いた



コリン・ハンフリー教授（写真右）と意見交換する天野センター長（写真左）

デバイスに代表される先端のエレクトロニクス研究を推進するとともに、高度な人材を育成し、未来のエレクトロニクス産業の基盤を創成することを目的として、昨年10月1日に設立されました。

シンポジウムは、天野センター長の司会で、学生を含む約140名が出席しました。松尾総長のあいさつの後、コリン・ハンフリーケンブリッジ大学教授をはじめ4名の海外招待講演者から、ヨーロッパの研究状況の講演が行われました。また、須賀唯知東京大学教授をはじめ3名の国内講演者から、それぞれの研究分野における動向や成果、今後の展望が示されました。

また、シンポジウム後には、野依記念学术交流館で意見交換会が行われ、ヨーロッパと日本の研究交流の場として活発な意見交換が行われました。

ひので衛星10周年記念講演会「太陽観測から宇宙と地球を探る」を開催

●宇宙地球環境研究所

宇宙地球環境研究所は、国立天文台、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙科学研究所と合同で、9月10日(土)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、ひので衛星10周年記念講演会「太陽観測から宇宙と地球を探る」を開催しました。

ひので衛星は日米英欧の協力によって開発された最新の



多数の来場者で埋まった講演会会場の様子

太陽観測衛星であり、2006年にJAXAによって打ち上げられて以来、現在に至るまで10年間連続した観測に成功しました。同研究所は、ひので衛星が観測したデータの解析環境を全国の研究者へ提供する「ひのでサイエンスセンター」を運用しています。

本講演会は、ひので衛星の10周年を記念して、その成果と科学的意義を一般市民に分かりやすく伝えることを目指して、ひので衛星に関わる3つの研究組織が合同で開催したものです。当日は、渡邊鉄哉国立天文台教授による趣旨説明の後、草野完也同研究所教授による講演「太陽フレアから地球を守れ！」など4つの講演が行われるとともに、来場者からの様々な質問に講演者が丁寧に応える時間が設けられました。

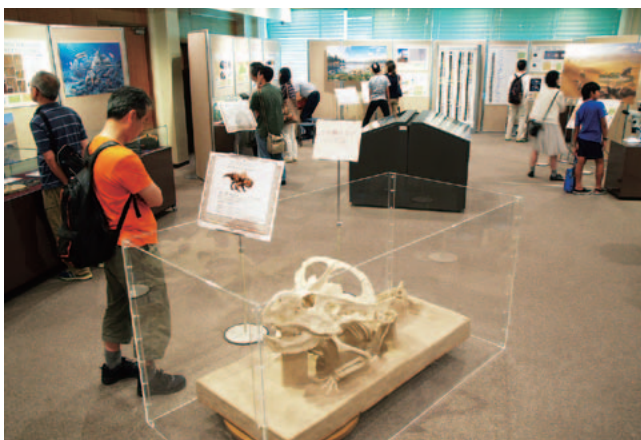
当日は220名を超える多数の来場者が集まり、ひので衛星がとらえた精密な太陽の映像に見入るとともに最新の太陽研究の成果に熱心に耳を傾けていました。アンケート結果では、95%の来場者が講演会に「とても満足」又は「満足」と回答しており、多くの来場者に太陽研究の意義とおもしろさを実感してもらうことができました。

第22回特別展「モンゴル大百科」を開催

●博物館

博物館では、4月19日(火)から8月27日(土)までの間、第22回特別展「モンゴル大百科」を開催しました。この展示は、博物館と大学院環境学研究科の教員が、2003年以来10年以上に渡ってモンゴルで行ってきた様々な研究成果を紹介したものです。

モンゴルは多様な鉱物資源や世界的に有名な恐竜化石な



モンゴル大百科の展示会場の様子

ど自然科学の宝庫です。今回の展示では、モンゴル特有の稀少な“自然誌”の証拠の数々を、6つの章立てで展示・解説しました。1章では約5億5千万年前に起こった生物の爆発的な進化を、2章では約2億年前の大陸の移動に伴って形成された鉱物資源を、3章では約1億2千万年前の湖の地層に記録される恐竜時代の気候変動を、4章では約8千万年前の砂漠環境に棲息していた恐竜の生態を、5章では約1,500万年前から続くモンゴルの火山活動を、そして6章では現在のモンゴルで問題となっている環境汚染を、というようにモンゴルの過去から現在の姿を章立てで展示・解説しました。また2009年にモンゴル・ウランバートル市内のモンゴル科学技術大学内に設置された、本学フィールドリサーチセンターの活動も紹介しました。

また展示の各章を担当した教員による4回の特別講演会と、馬頭琴のコンサートも行い、展示期間中の来館者は延べ12,000名を超えました。特別講演会の際に行ったアンケートによると、博物館と大学院環境学研究科の連携教員がモンゴルで行った最新の研究成果を知ることが出来、驚いたり、感心したり、十分楽しんで頂けたようです。

ミクロの探検隊®を開催

●博物館

博物館では、8月20日(土)、「ミクロの探検隊® 名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう！ー雑木林のムシー」を開催しました。今回は、小学5年生から高校生まで抽選で選ばれた24名が参加しました。

これは、野外でのムシの採集と実験室での観察の両方を体験するプログラムで、ミクロの探検隊®の中でも人気が高

いイベントです。まず始めに博物館観察園の雑木林で、ピーティングネットを使用して、クモやゾウムシなどの小さなムシを集めました。最初は、なかなかピーティングネットにムシが入らなかった小学生も最後にはすっかり上手になり、集まってくる蚊に悩まされながらも、各自、数匹は採集することができました。次に同館実験室において実体顕微鏡を使って、採集したばかりのムシを観察し、ムシの名前を調べたりスケッチをしたりしました。その後、竹田真木生神戸大学名誉教授の「昆虫の進化」の説明を聞きました。お昼を挟んでからは、さらに詳細な観察をするため、電子顕微鏡での観察撮影を行い、初めて触る電子顕微鏡とそこに映し出される今まで見たことのないミクロの世界に、参加者は興奮気味にどんどん引き込まれていきました。

参加者のアンケートでは、「科学への興味が出た、また参加したい」など、楽しんで科学に触れたことがうかがえ、また、最後には自分自身で撮影したムシの電子顕微鏡写真を使ってポストカードを作り、これも夏休みの良い記念となり、参加者は充実した1日を過ごしたようです。



電子顕微鏡で虫を観察する参加者

受賞者一覧

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28. 3.16	日本衝撃波研究会 平成27年度衝撃波シンポジウム Best Presentation Award (若手プレゼンテーション賞)	大学院工学研究科助教	松岡 健	笠原次郎(大学院工学研究科教授)、他4名と連名
H28. 3.16	日本衝撃波研究会 平成27年度衝撃波シンポジウム Best Presentation Award (若手プレゼンテーション賞)	大学院工学研究科助教	岩川 輝	ファン ホアン ソン(大学院工学研究科M1)、正田達郎(大学院工学研究科M2)、丹波高裕(大学院工学研究科D1)、佐宗章弘(大学院工学研究科教授)と連名
H28. 4.13	日本化学会 第96春季年会(2016)優秀講演賞(学術)(CSJ Presentation Award 2016)	大学院工学研究科助教	石川 聖人	
H28. 5.20	空気調和・衛生工学会 第30回空気調和・衛生工学会振興賞技術振興賞	施設・環境計画推進室 特任教授	田中 英紀	他3名と連名
H28. 5.22	日本地球惑星科学連合 2016年大会 生物地球化学セッションポスター賞	大学院環境学研究科 特任助教	伊藤 昌稚	角皆 潤(大学院環境学研究科教授)、中川書子(大学院環境学研究科准教授)と連名
H28. 5.24	粉体粉末冶金協会 研究功績賞	未来材料・システム研究所 教授	小澤 正邦	
H28. 5.25	ASSMO Award, Asian Society for Structural and Multidisciplinary Optimization	大学院情報科学研究科教授	畔上 秀幸	
H28. 6. 3	日本セラミックス協会 フェロー表彰	大学院工学研究科教授	大槻 主税	
H28. 6. 4	Best Abstract Award, The 36th Annual Meeting of the Korean Society of Nephrology (KSN2016)	大学院医学系研究科 客員研究者	佐藤 由香	
H28. 6. 8	平成27年度地盤工学会研究奨励賞	大学院工学研究科助教	吉川 高広	
H28. 6.10	平成27年度土木学会出版文化賞	大学院工学研究科講師	中村晋一郎	他4名と連名
H28. 6.16	日本頭蓋底外科学会 優秀論文賞	医学部附属病院助教	西尾 直樹	
H28. 6.17	第37回日本炎症・再生医学会 優秀演題賞	先端ナノバイオデバイス 研究センター特任講師	湯川 博	
H28. 6.20	日本コンクリート工学会 2016年日本コンクリート工学会賞(論文賞)	大学院環境学研究科准教授	丸山 一平	他1名と連名
H28. 6.23	電子情報通信学会 平成28年度 情報・システムソサイエティ査読功労賞	大学院情報科学研究科助教	川西 康友	
H28. 6.23	電子情報通信学会 平成28年度 情報・システムソサイエティ査読功労賞	大学院情報科学研究科 特任准教授	平山 高嗣	
H28. 6.24	人工知能学会2015年度 研究会優秀賞	大学院情報科学研究科 准教授	鈴木 麗璽	松林志保(大学院情報科学研究科 協力研究員)と連名
H28. 6.24	Silver Medal, The International Plant Growth Substances Assosiation 2016 (IPGSA)	大学院生命農学研究科教授	榊原 均	
H28. 7. 1	第32回日本 DDS 学会学術集会 一般講演 優秀発表賞(ポスター発表の部)	未来材料・システム研究所 助教	林 幸吉朗	
H28. 7. 2	第12回麒麟塾 麒麟児賞	大学院医学系研究科助教	田村 彰吾	
H28. 7.14	GP Scientific Prize 2016 (グループポリフェノール科学賞)	大学院情報科学研究科教授	吉田 久美	
H28. 7.19	Best Paper Award, HCI 2016 International Conference	大学院情報科学研究科 研究員	松室 美紀	三輪和久(大学院情報科学研究科教授)と連名
H28. 7.24	Virtual Creatures Competiton 優勝, Genetic and Evolutionary Computation Conference (GECCO)	大学院情報科学研究科 准教授	鈴木 麗璽	有田隆也(大学院情報科学研究科教授)、ミハウ ヨアヒムチャク(大学院情報科学研究科外国人特別研究員)、他1名と連名
H28. 7.27	Doornbos Memorial Prize, The Committee on Studies of the Earth's Deep Interior (SEDI)	宇宙地球環境研究所 協力研究員	堀 久美子	
H28. 7.28	高分子学会 第26回バイオ・高分子シンポジウム 若手研究者奨励講演賞	大学院工学研究科助教	村山 恵司	
H28. 8. 3	Certificate of Outstanding Contribution in Reviewing, The 19th Meeting on Image Recognition and Understanding 2016	大学院情報科学研究科 准教授	井手 一郎	
H28. 8. 8	日本学術振興会 平成27年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)の表彰	大学院理学研究科教授	大隅 圭太	
H28. 8. 8	日本学術振興会 平成27年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)の表彰	大学院多元数理科学研究科 教授	杉本 充	
H28. 8.12	Poster Prize, The 17th International Symposium on Epstein-Barr virus and Associated Diseases	大学院医学系研究科助教	佐藤 好隆	
H28. 8.18	日本平滑筋学会 優秀論文賞	大学院医学系研究科 特別研究員(PD)	玉田 宏美	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28. 8.21	Certificate of Excellent Oral Presentation, 2016 IEEE International Conference on Intelligent Transportation Engineering (ICITE2016)	大学院工学研究科教授	原 進	
H28. 8.25	International Symposium on Pure & Applied Chemistry (ISPAC) 2016 優秀講演賞	大学院理学研究科准教授	大木 靖弘	
H28. 8.25	International Symposium on Pure & Applied Chemistry (ISPAC) 2016 優秀講演賞	物質科学国際研究センター准教授	山田 泰之	
H28. 8.26	第27回日本末梢神経学会学術集会 日本末梢神経学会賞	医学部附属病院助教	中野 智則	栗本 秀 (大学院医学系研究科特任講師)、 岩月克之 (医学部附属病院講師)、 平田 仁 (大学院医学系研究科教授) と 連名
H28. 9. 1	日本知能情報フアジィ学会 著述賞	大学院工学研究科助教	ジメネス フェリックス	
H28. 9. 1	Young Researcher Award (Fuzzy System Symposium), IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter	大学院工学研究科助教	ジメネス フェリックス	
H28. 9. 3	第6回2016年度日本乾癬学会「鳥居・帝國乾癬研究奨励賞」〈学会発表部門・臨床〉	医学部附属病院助教	武市 拓也	
H28. 9. 5	電気学会 平成27年 基礎・材料・共通部門表彰	大学院工学研究科助教	飯盛 浩司	
H28. 9. 5	日本熱電学会 欧文論文賞	大学院工学研究科教授	曾田 一雄	他2名と連名
H28. 9. 6	第10回日本統計学会研究業績賞	大学院情報科学研究科教授	金森 敬文	他1名と連名
H28. 9. 7	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第34回研究会 優秀研究賞	大学院工学研究科助教	安井 隆雄	加地範匡 (大学院工学研究科准教授)、 馬場嘉信 (大学院工学研究科教授)、 他5名と連名
H28. 9. 7	2016年度 光化学協会賞	大学院工学研究科教授	鳥本 司	
H28. 9. 7	平成28年度防災功労者防災担当大臣表彰	大学院環境学研究科教授	山岡 耕春	
H28. 9. 9	日本生物学的精神医学会 第5期 (2016年) 若手研究者育成プログラム奨励賞	高等研究院特任助教	久島 周	
H28. 9.10	日本カナダ学会 研究奨励賞優秀論文賞	高等研究院特任助教	梅川 佳子	
H28. 9.13	応用物理学会 第10回 (2016年度) フェロー表彰	大学院工学研究科教授	藤巻 朗	

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 3.12	Best Presentation Award, RSC Tokyo International Conference 2016 (RSC-TIC2016)	大学院環境学研究科 M1	市川 綾音	
H28. 3.16	日本衝撃波研究会 平成27年度 衝撃波シンポジウム Best Presentation Award (若手プレゼンテーション賞)	大学院工学研究科 M2	正田 達郎	ファン ホアン ソン (大学院工学研究科 M1)、 丹波高裕 (大学院工学研究科 D1)、 岩川 輝 (大学院工学研究科助教)、 佐宗章弘 (大学院工学研究科教授) と連名
H28. 3.30	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 M1	深谷 和貴	
H28. 5.27	第65回高分子学会年次大会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 D2	白杵 直也	
H28. 5.27	第65回高分子学会年次大会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	城地 悠仁	
H28. 5.27	第65回高分子学会年次大会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	藤木 佑真	
H28. 5.27	日本造園学会 平成28年度全国大会学生公開アイデアコンペ 最優秀賞	大学院環境学研究科 M1	市川 綾音	北村 将 (大学院環境学研究科 M1)、 藤枝大樹 (大学院環境学研究科 M1) と 連名
H28. 5.28	日本材料学会 第65期学術講演会 優秀講演賞	大学院工学研究科 M1	安藤 晶治	小林克敏 (未来材料・システム研究所助教)、 小澤正邦 (未来材料・システム研究所教授)、 他2名と連名
H28. 5.28	日本建築家協会 東海支部 第23回 JIA 東海 学生卒業設計コンクール2016 銀賞	大学院環境学研究科 M1	市川 綾音	
H28. 5.28	日本建築家協会 東海支部 第23回 JIA 東海 学生卒業設計コンクール2016 入賞	大学院環境学研究科 M1	藤枝 大樹	
H28. 5.31	日本地球惑星科学連合2016年大会 学生優秀発表賞 (固体地球科学セクション)	大学院環境学研究科 D3	篠島 僚平	
H28. 5.31	理論化学研究会 第19回理論化学討論会 優秀ポスター賞	大学院情報科学研究科 D2	松本健太郎	カラカッドバランビル サンカラン サンディア (大学院情報科学研究科研究員)、 高柳昌芳 (大学院情報科学研究科特任助教)、 古賀伸明 (大学院情報科学研究科教授)、 長岡正隆 (大学院情報科学研究科教授) と 連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 6. 4	東海心理学会優秀大会発表賞	大学院教育発達科学研究科 D3	玉井 颯一	
H28. 6.15	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 D1	木下 雅之	
H28. 6.15	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	高倉健太郎	
H28. 6.15	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	丹羽 真規	
H28. 6.15	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（修士）	大学院工学研究科 M2	石川 智啓	
H28. 6.15	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞（学士）	大学院工学研究科 M1	三輪 洋祐	
H28. 6.18	日本オペレーションズ・リサーチ学会研究部会 「評価のOR」学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	董 航	
H28. 6.22	3rd Best Poster IWDM 2016, The 13th International Workshop for Breast Imaging (Malmo, Sweden)	大学院医学系研究科 M1	中嶋 愛	井堀亜希子（大学院医学系研究科助教）、 小寺吉衛（大学院医学系研究科教授）と 連名
H28. 6.24	第52回東海若手セラミスト懇話会 ベスト質問賞	大学院理学研究科 D1	永井 隆之	
H28. 6.24	第52回東海若手セラミスト懇話会 ベスト質問賞	大学院理学研究科 M1	若松 徹	
H28. 6.25	日本古生物学会 優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 D3	加藤 萌	大路樹生（博物館教授）、他1名と連名
H28. 7. 1	観光情報学会第12回研究発表会 研究発表会 奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	荻島 和真	
H28. 7. 5	第20回液晶化学研究会シンポジウム 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	野田玲央奈	
H28. 7. 6	平成28年度名古屋大学学術奨励賞	大学院創薬科学研究科 D3	志甫谷 渉	
H28. 7. 6	Young Researcher Award, 2016 Asia-Pacific Workshop on Fundamentals and Applications of Advanced Semiconductor Devices (AWAD2016)	大学院工学研究科 M2	加藤 祐介	
H28. 7. 6	平成28年度名古屋大学学術奨励賞	大学院理学研究科 D3	伊藤 亜実	
H28. 7. 6	平成28年度名古屋大学学術奨励賞	大学院多元数理科学研究科 D3	藤野 弘基	
H28. 7. 6	平成28年度名古屋大学学術奨励賞	大学院理学研究科 D1	柴山 拓也	
H28. 7. 7	Best Paper Award, International Conference on Photonics in Switching 2016 (OECC/PS 2016)	大学院工学研究科 D1	上田 恒	森洋二郎（大学院工学研究科助教）、 長谷川浩（大学院工学研究科准教授）、 佐藤健一（大学院工学研究科教授）と連名
H28. 7. 7	The Herpetologists' League Graduate Research Award, American Society of Ichthyologists and Herpetologists	大学院環境学研究科 D3	ノエリカント ラマモンジス	夏原由博（大学院環境学研究科教授）と 連名
H28. 7. 8	日本コンクリート工学会 年次論文奨励賞	大学院環境学研究科 M2	栗原 諒	丸山一平（大学院環境学研究科准教授）と 連名
H28. 7. 9	第62回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 D3	森 翔大	
H28. 7. 9	第62回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 D2	黒原 崇	
H28. 7. 9	第62回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 D1	吉田 啓	
H28. 7. 9	第62回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 M2	村上 慶伍	
H28. 7. 9	第62回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 M1	今井 優希	
H28. 7.16	生体機能関連化学部会若手の会 第28回若手の会 優秀ポスター賞	大学院理学研究科 M1	千田樹絵子	
H28. 7.17	生物工学若手研究者の集い（若手会） 夏のセミナー2016 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	小崎 一功	
H28. 7.21	第51回有機反応若手の会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	川上 太郎	波多野学（大学院工学研究科准教授）、 石原一彰（大学院工学研究科教授）と連名
H28. 7.29	第26回バイオ・高分子シンポジウム 学生優秀ポスター賞	大学院理学研究科 M2	四坂 勇磨	
H28. 8. 1	土木学会 第60回水工学講演会 アウトスタンディング・ディスカッション賞	大学院工学研究科 D3	溝口 裕太	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 8. 6	第48回構造有機化学若手の会 夏の学校 ポスター講師賞	大学院工学研究科 D1	野澤 遼	
H28. 8. 6	第48回構造有機化学若手の会 夏の学校 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	岡田 圭秀	
H28. 8. 7	第13回日本中性子捕捉療法学会学術大会 ベストプレゼンテーション賞	大学院工学研究科 M1	古澤 大貴	
H28. 8. 8	外国語教育メディア学会論文賞	大学院国際開発研究科 D3	江口 朗子	
H28. 8. 8	名古屋大学若手女性研究者 サイエンスフォーラム 総長賞	大学院理学研究科 M1	伏見 雅子	
H28. 8. 8	名古屋大学若手女性研究者 サイエンスフォーラム 総長賞	大学院理学研究科 M1	伊藤 江里	
H28. 8.24	日本建築学会 2016年度支部共通事業 日本建築学会設計競技 全国入選 佳作	大学院環境学研究科 M1	北村 将	市川綾音 (大学院環境学研究科 M1)、 藤枝大樹 (大学院環境学研究科 M1) と 連名
H28. 8.25	Best Student Award, 16th International Conference on Nanotechnology (IEEE NANO 2016)	大学院工学研究科 M1	本部 惇史	黒川康良 (大学院工学研究科講師)、 宇佐美德隆 (大学院工学研究科教授) と 連名
H28. 8.25	Presentation Award, International Symposium on Pure & Applied Chemistry (ISPAC) 2016	大学院理学研究科 D2	森岡 優菜	
H28. 8.25	Best Paper Award, The 11th International Conference on Computer Science & Education (IEEE ICCSE 2016)	大学院情報科学研究科 M2	高橋 朋矢	福安真奈 (大学院情報科学研究科 D3)、 遠藤 守 (大学院情報科学研究科准教授)、 安田孝美 (大学院情報科学研究科教授)、 他2名と連名
H28. 8.27	誘電体・磁性体若手夏の学校2016 最優秀ポスター賞	大学院理学研究科 M1	若松 徹	
H28. 9. 1	電気学会 第47回電気電子絶縁材料システム シンポジウム MVP セッション 優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	吉田 拓真	栗本宗明 (大学院工学研究科助教)、 真鍋勇介 (未来材料・システム研究所 寄附研究部門助教)、舟橋俊久 (未来材料・ システム研究所寄附研究部門教員)、 加藤文佳 (未来材料・システム研究所教授)、 他1名と連名
H28. 9. 2	第19回プラスチックリサイクル化学研究会 (FSRJ) 若手研究者賞 (口頭発表)	大学院工学研究科 M2	松岡 大貴	
H28. 9. 3	高分子学会 東海支部 東海高分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 D1	間宮 文彦	
H28. 9. 3	高分子学会 東海支部 東海高分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	岩田 拓也	
H28. 9. 3	高分子学会 東海支部 東海高分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	川端 賢	
H28. 9. 3	高分子学会 東海支部 東海高分子研究会講演会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	野村 麻紀	
H28. 9. 3	第27回基礎有機化学討論会 若手口頭発表賞 (Chemical Science 賞)	大学院工学研究科 D2	吉田 拓矢	
H28. 9. 3	第27回基礎有機化学討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	矢野 裕太	
H28. 9. 5	電気学会 優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M2	尾崎 裕哉	栗本宗明 (大学院工学研究科助教)、 真鍋勇介 (未来材料・システム研究所 寄附研究部門助教)、舟橋俊久 (未来材料・ システム研究所寄附研究部門教員)、 加藤文佳 (未来材料・システム研究所教授)、 他1名と連名
H28. 9. 7	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第34回研究会 優秀発表賞	大学院工学研究科 D2	矢崎 啓寿	
H28. 9. 8	日本化学会 第10回バイオ関連化学 シンポジウム 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M2	神元 寛	
H28. 9. 8	第33回有機合成化学セミナー ポスター賞	大学院理学研究科 M1	古賀 義人	
H28. 9. 9	Best Presentation Award, RSC Tokyo International Conference 2016 (RSC-TIC2016)	大学院工学研究科 M2	嶋田 泰佑	
H28. 9. 9	日本化学会 第10回バイオ関連化学 シンポジウム 優秀ポスター賞	大学院理学研究科 M2	四坂 勇磨	
H28. 9. 9	日本化学会 第10回バイオ関連化学 シンポジウム 優秀ポスター賞	大学院理学研究科 M1	鈴木 惇平	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 9. 9	2015年度前期日本生物学的精神医学会 国際学会発表奨励賞	大学院医学系研究科 D3	丸井 友泰	
H28. 9. 9	2015年度前期日本生物学的精神医学会 国際学会発表奨励賞	大学院医学系研究科 D3	諸澤 俊介	
H28. 9.11	錯体化学会第66回討論会 ポスター賞	大学院理学研究科 M2	四坂 勇磨	
H28. 9.13	第40回(2016年春季)応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科 D3	川越 寛之	山中真仁(大学院工学研究科助教)、 西澤典彦(大学院工学研究科教授)と連名
H28. 9.15	日本音響学会 第13回 (2016年春季研究発表会) 学生優秀発表賞	大学院情報科学研究科 D1	田尻 祐介	戸田智基(情報基盤センター教授)、 他2名と連名

*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
1 藤原慎一博物館助教らの研究チームは、カニなど92種類のはさみの強度を形状から計測	8.16 (火) 8.18 (木)	朝日(夕刊) 毎日(朝刊)
2 リオデジャネイロオリンピック陸上女子5,000メートル予選 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生の結果	8.16 (火) 8.17 (水)	中日(夕刊) 毎日(朝刊) 他2社
3 秋季高校野球地区大会:教育学部附属高等学校(愛知県立瀬戸北総合高等学校・名古屋市商業高等学校との連合チーム)対享栄高等学校の結果	8.17 (水)	毎日(朝刊)
4 名大出身初 五輪ランナー けが乗り越え力走 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	8.17 (水) 8.18 (木)	日経(夕刊) 日経(朝刊) 他3社
5 本間道夫理学研究科教授らの研究グループはべん毛モーターの MotA 分子の構造を解明	8.18 (木)	中日(朝刊)
6 本学と夢木香株式会社は共同研究で木曽ヒノキに含まれる成分「 α -テルピネオール」が悪臭源「イソ吉草酸」を分子レベルで分解、溶解する働きがあることを突き止めた	8.18 (木)	中日(朝刊)
7 秋季高校野球地区大会:教育学部附属高等学校(愛知県立瀬戸北総合高等学校・名古屋市商業高等学校との連合チーム)対瀬戸窯業高等学校と対戦し7-5で勝利	8.18 (木)	毎日(朝刊)
8 下村 脩本学特別教授がノーベル賞を受賞した研究が取り上げられる	8.18 (木)	中日(夕刊)
9 紙つぶて:中部経済同友会 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長長村 均氏本学卒業生	8.18 (木)	中日(夕刊)
10 天才少女 再起誓う 鈴木、悔しい初五輪 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	8.18 (木)	毎日(夕刊)
11 本学の留学生2人が株式会社十六銀行でインターンシップに参加	8.19 (金)	中部経済
12 秋季高校野球地区大会:教育学部附属高等学校(愛知県立瀬戸北総合高等学校・名古屋市商業高等学校との連合チーム)対千種高等学校の結果	8.19 (金)	毎日(朝刊)
13 本学は原子炉の底部まで透視できる技術を開発し、23日から中部電力浜岡原子力発電所2号機で実証試験を始める	8.19 (金)	日経(夕刊)
14 本学などが取り組む自動走行車実証実験の関係者向けの体験試乗会が「七宝焼きアートヴィレッジ」で行われた	8.20 (土)	毎日(朝刊)
15 本学で中学・高校生が化学の知識や実験技術を競う「化学グランプリ」が始まった	8.20 (土)	中日(朝刊)
16 中村章人さん経済学部4年生が母校の愛知県立明和高等学校で出前授業を行った	8.20 (土)	中日(夕刊)
17 曾根好徳減災連携研究センター寄附研究部門教授は土砂災害警戒区域の指定状況について「広島の教訓を生かし、地価への影響を考えずに素早く調査し、公表、指定するべきだ」と語る	8.21 (日)	中日(朝刊)
18 本学と米国立衛生研究所は共同で、免疫の攻撃からがん細胞を守っている「制御性T細胞」を攻撃し、がん細胞を死滅させる方法を発見	8.22 (月)	日経(朝刊)
19 モノづくりの窓口 みんなの特許(30):大学の「知」をつなげる 科学技術振興機構の活動 青色LED研究の本学と豊田合成株式会社の産学連携は名古屋商工会議所で赤崎 勇本学特別教授の話聞いたのが始まり	8.22 (月)	中部経済
20 「メッセナゴヤ2016」開催:10月26日 本学などの学生が考える新製品のアイデアと、要素技術を持つ出展企業とのマッチングも実施する	8.22 (月)	日刊工業
21 日本法教育研究センターで法律を学ぶ24人が株式会社十六銀行で行われたセミナーに参加	8.22 (月)	中部経済
22 英国科学実験講座 クリスマスレクチャー2016開催:21日 豊田講堂で行われた	8.22 (月)	読売
23 山本 尚本学名誉教授が野依良治本学特別教授に続き、日本人で二人目となるロジャー・アダムス賞を受賞	8.22 (月) 8.23 (火) 8.24 (水)	日経(夕刊) 中日(夕刊) 毎日(朝刊) 他4社 日刊工業
24 授業ウォッチ「学問の面白さを知る」益川敏英本学特別教授の授業が行われ、渡辺幹太さん工学部1年生は「一流の研究者の言葉は重みがある」と語る	8.23 (火)	中日(朝刊)
25 凜としている:理系女性の挑戦 マイクロメートル寸法測定 3つの転機で人の助け 立命館大学准教授安藤妙子氏本学元講師	8.23 (火)	日刊工業
26 Rio2016:中部の花 東京で開け 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生はレース後に「(経験を)次につなげたい」と語る	8.23 (火)	日経(朝刊) 中日(朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
27 坪木和久宇宙地球環境研究所教授は地球温暖化と台風の関係について「2074～2087年に発生する平均風速67メートル以上のスーパー台風は、12個に達する」と予測する	8.24 (水)	読売
28 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が会長を務める経済産業相の諮問機関産業構造審議会が第19回総会を開いた	8.24 (水)	日刊工業
29 五輪 熱戦の記録：陸上女子5,000メートル 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生 15分41秒81	8.24 (水)	中日 (朝刊)
30 東海書道展入賞者：名古屋市市長賞 小汐真輝さん教育学部附属中学校生	8.24 (水)	中日 (朝刊)
31 堀 勝未来社会創造機構教授は、低温プラズマの活用でシュウ酸の合成、シュウ酸カルシウムの結晶化を簡単に可能にする手法を開発	8.25 (木)	日刊工業
32 愛知県で来年4月から新たに重症複合免疫不全症とボンペ病の二つが新生児マス・スクリーニングの検査の対象に加わり、重症複合免疫不全症の検査は医学部附属病院の技術を活用する	8.25 (木)	中日 (朝刊)
33 本学で電子顕微鏡を使った観察体験があり、愛知淑徳高等学校の生徒6人が参加した	8.25 (木)	中日 (朝刊)
34 中日新聞 地球未来子ども塾：田中隆文生命農学研究科准教授は「大自然に接し地元の方々と触れ合ったこの経験を大切にしてくださいね」と語る	8.25 (木)	中日 (朝刊)
35 夢・化学-21と日本化学会は本学で行われた「化学グランプリ」の大賞5人を選んだ	8.26 (金)	中日 (朝刊)
36 大幸財団学術研究助成：佐藤ちひろ生物機能開発利用研究センター准教授、長谷川 精博物館特任准教授	8.27 (土)	中日 (朝刊)
37 ひと@あいち：NPO法人「宗春口マン隊」代表東海学園大学特任教授安田文吉氏本学卒業生	8.28 (日)	毎日 (朝刊)
38 本学は文部科学省において設置計画が認められたため2017年4月に工学部と工学研究科を改組する	8.29 (月)	日刊工業
39 キー・コンピテンシーと大学：磯田文雄アジアサテライトキャンパス学院教授	9. 1 (木)	読売
40 坪木和久宇宙地球環境研究所教授らは、航空機を用いた台風の直接観測を始める	8.29 (月)	日経 (朝刊)
41 予知信仰の崩壊 東海地震説40年 (中)：3連動 広がる危機感 福和伸夫減災連携研究センター教授は「強化地域の指定は防災対策の進展に寄与した」と語る	8.29 (月)	中部経済 毎日 (夕刊)
42 本学の専門家から助言を受け中部圏を中心とした自治体や内閣府、中部地方整備局などは、南海トラフを震源とする巨大地震と津波に備えた広域的な防災訓練を行った	8.29 (月)	中部経済
43 小林 誠本学特別教授が母校の愛知県立明和高等学校を訪問	9. 2 (金)	毎日 (朝刊)
44 本学の教授らによる「減災まちづくり研究会」は、冊子「地区の減災まちづくりガイドライン」を作製	8.30 (火)	中日 (朝刊)
45 窪田由紀教育発達科学研究科教授は夏休み明けに中高生の自殺が増えていることについて「学校に行くことが死ぬほどつらいあなたへ。休むことも選択肢の一つです」と語る	8.30 (火)	朝日 (朝刊)
46 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生が出身地の豊橋市役所を訪れ「世界の異次元の走りを体感し、さらに強くなって4年後の東京五輪の舞台で成長した走りを見せたい」と語る	8.30 (火)	朝日 (朝刊)
47 國枝理事はエックス線天文衛星「ひとみ」の代替機の開発について「X線観測抜きに宇宙で起きる現象の全体像は理解できない。代替機は世界に対する日本の責任」と語る	8.31 (水)	読売
48 本学とトルコの共同研究チームが、アニメを使ったトルコ国内向けの津波対策教材の開発に取り組んでいる	8.31 (水)	中日 (朝刊)
49 本学でライフイズテック株式会社が「プログラミングキャンプ」を開くなど、プログラミング教育が活況をむかえている	8.31 (水)	中日 (朝刊)
50 本学と中部電力株式会社はミュオン粒子をとらえて原子炉の格納容器内を調べる実証実験を公開	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
	9. 8 (木)	他2社 毎日 (朝刊)
51 梶村益久医学系研究科講師などのグループが副腎不全の症状改善にアルツハイマー病の治療薬が効果的な可能性があると突きとめた	9. 1 (木)	中日 (朝刊)
52 坪木和久宇宙地球環境研究所教授が計画中の航空機を使った台風の直接観測について取り上げられる	9. 1 (木)	毎日 (朝刊)
53 坪木和久宇宙地球環境研究所教授は台風10号の犠牲者が多かった岩手県と北海道について「どちらの地域も水蒸気が周囲にある山の斜面にぶつかり雨が降りやすい条件がそろった」と話す	9. 1 (木)	読売
54 DOCTOR が薦める名医 早川昌弘医学部附属病院教授	9. 1 (木)	中部経済
55 防災の日特集 減災連携研究センター：産学官連携、減災社会の実現めざす	9. 1 (木)	中部経済
56 防災の日特集「研究ベースに社会へ生かす 災害対策共有し、連携を」武村雅之減災連携研究センター寄附研究部門教授	9. 1 (木)	中部経済
57 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授らのグループは、全く新しい有機ナノチューブの簡便な合成に成功	9. 1 (木)	中日 (夕刊)
58 相次ぐ災害 備え全力 福和伸夫減災連携研究センター教授は「自分でできることは最大限して、近所の人とどれだけ助けあえるかが鍵。地域づくりが防災の基本です」と語る	9. 1 (木)	中日 (夕刊)
59 紙つぶて：男の料理 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	9. 1 (木)	中日 (夕刊)
60 打田直行トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授らの研究グループは植物の葉をギザギザにする物質を発見	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
	9. 5 (月)	日経 (朝刊)
61 本学とトヨタ自動車株式会社などは、大量の走行データを収集し、自動運転用人工知能の安全性を高める取り組みを始める	9. 2 (金)	日刊工業
62 本学と名古屋都市センターは、これまで分散していたハザードマップや古地図など災害に強い街づくりに必要な地図情報を集約したシステムの開発を進めている	9. 2 (金)	中日 (朝刊)
63 阪本真由美減災連携研究センター特任准教授は岩手県のグループホームで入所者9人が死亡した水害について「職員数が多い昼間のうちに、早めに逃げるのが重要」と語る	9. 2 (金)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
64 「Hinode-10 Science Meeting」開催：5～9日 草野完也宇宙地球環境研究所教授が講演	9. 2 (金)	日刊工業
65 天皇、皇后両陛下は、照明学会創立100周年記念祝賀会に出席され、赤崎 勇本学特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授らとの懇談を楽しまれた	9. 3 (土)	読売
66 備える！中日サバイバルキャンプ開催：10月15、16日 減災館で地震の揺れを体感	9. 3 (土) 9. 5 (月)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
67 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生がプロ棋士となる4段昇段を決め、史上最年少の14歳2ヶ月でのプロ入りとなる	9. 4 (日)	日経 (朝刊) 他2社
68 ひと：将棋プロ棋士の最年少記録を更新 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	9. 4 (日)	毎日 (朝刊)
69 親子ノート 未来へ一手 5歳から金言 書き連ね 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	9. 4 (日)	中日 (朝刊)
70 病院の実力：大腸がん 本学の治療実績が取り上げられる	9. 4 (日)	読売
71 主権者教育を考える～実践したらこうなった開催：3日 藤本 亮法学研究科教授が講演	9. 4 (日)	中日 (朝刊)
72 本学の人工知能と人間が一体となった社会システムが科学技術振興機構の「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム」に採択された	9. 5 (月)	日刊工業
73 変わる大学入試⑩：植田健男教育発達科学研究科教授に聞く 方向性見えず、拙速な議論	9. 5 (月)	中日 (朝刊)
74 日本の未来会議 次の百年を創る vol.58：本学発ベンチャー 株式会社スナップショット 人事・総務支援 新サービス開発 同社社長上捨石 弘氏が本学在学中に安田孝美情報科学研究科教授の研究室のメンバーと NTT ドコモのiモード向けコンテンツの受託開発事業を始めたのがスタート	9. 5 (月)	日刊工業
75 脳とこころの研究センターがワークショップを医学部附属病院で開いた	9. 6 (火)	中日 (朝刊)
76 質問なるほど：中学生棋士なぜすごい？ 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生が史上最年少の14歳2ヶ月でのプロ入りを決めたことが取り上げられる	9. 6 (火)	毎日 (朝刊)
77 本学の司法試験合格者が34名だった	9. 7 (水) 9. 8 (木)	朝日 (朝刊) 他3社 中日 (朝刊)
78 パリ協定 批准急いだ米中 温暖化対策 企業が先行 高村ゆかり環境学研究科教授	9. 8 (木)	読売
79 プロ棋士入りを果たした藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生がかつて通っていた「ふみもと子供将棋教室」に昇段報告に訪れた	9. 8 (木)	中日 (朝刊)
80 ひと：史上最年少で将棋のプロ棋士になる中学2年生 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	9. 8 (木)	朝日 (朝刊)
81 第33回博物館企画展／名古屋大学全学同窓会台湾支部設立5周年記念「台湾 朱振南 書画の世界一書による日台文化交流と後藤新平の再評価」開催：13日～10月29日	9. 8 (木)	中日 (朝刊)
82 紙つぶて：バブル経済 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	9. 8 (木)	中日 (夕刊)
83 大幸財団助成：鈴木将文学研究科教授、金 相美国際言語文化研究科准教授、古橋忠晃総合保健体育科学センター准教授、朱 宇正文学研究科助教	9. 9 (金)	中日 (朝刊)
84 河合塾文化行事講演「精神障害はどうして起こるのか？ 遺伝？ 育ち」開催：16日 尾崎紀夫医学系研究科教授が講演	9. 9 (金)	中日 (朝刊)
85 「あいち国際女性映画祭」特別企画イスラム圏の女性の教育や社会進出を考える講演会でアミロバ・ナルザキさん法科大学院研究員が講演	9. 9 (金)	中日 (朝刊)
86 本学は東京商工リサーチ名古屋支社がまとめた愛知県内に本社を置く企業の社長の出身大学ランキングで839人の4位だった	9. 9 (金) 9.10 (土)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
87 経済サブリ：上昇する食の外部化率 栄養不足や過剰懸念も 生源寺真一生命農学研究科教授	9.10 (土)	中部経済
88 市民公開講座「腎臓病・糖尿病に負けない生き方」-2016-開催：10月2日	9.10 (土)	朝日 (朝刊)
89 福和伸夫減災連携研究センター教授は庁舎の耐震化について「自治体は市民に聞こえのいい優先順位の付け方から、災害時を本気で考えた優先順位の付け方に変えるべきだ」と強調する	9.11 (日)	中日 (朝刊)
90 水野幸治工学研究科教授や伊藤大輔助教らの研究グループは、2013、14年に愛知県内で発生した自転車関係の死亡事故約150件を検証	9.13 (火)	中日 (朝刊)
91 先週のことば：史上最年少プロ棋士誕生 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	9.13 (火)	中日 (朝刊)
92 10月にグローバル30プログラムで本学に学部入学するエジプト人留学生イスラム・サブリさんが「大学が生んだノーベル賞受賞者にあこがれている」と話し益川敏英本学特別教授や小林 誠同特別教授の名前をあげた	9.13 (火)	中日 (朝刊)
93 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は2017年の就職活動について、採用面接の解禁を今年と同じ6月1日とする日程を発表	9.13 (火)	日経 (朝刊) 他3社
94 本学や東北大学、コニカミノルタ株式会社や東レ株式会社など16社が設立した技術研究組合「先端素材高速開発技術研究組合」、産業技術総合研究所など合計25機関が1つの拠点で集中的に人工知能を使った材料開発などを行う	9.14 (水)	日刊工業
95 「第4回リケジョ未来シンポジウム サイエンスの学びから将来の夢へ」開催：18日 佐々木成江理学研究科准教授が講演	9.14 (水)	日刊工業
96 2017年度国立大学 入試要項：名古屋大学	9.14 (水)	中日 (朝刊)
97 「メッセナゴヤ2016」開催：10月26日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	9.15 (木)	中日 (朝刊)
98 全国ファブリー病患者と家族の会オープンセミナー開催：10月2日 奥村貴裕医学部附属病院助教が講演	9.15 (木)	中日 (朝刊)
99 情報科学研究科公開セミナー開催：20日 金森敬文情報科学研究科教授、村瀬 洋情報科学研究科教授が講義	9.15 (木)	中日 (朝刊)
100 紙つぶて：格差と米大統領 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	9.15 (木)	中日 (夕刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

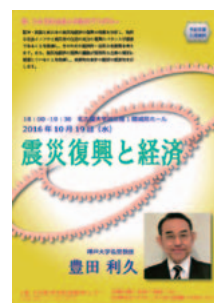
内容

10月19日(水)、28日(金)

場 所：減災館 1階減災ホール
時 間：18:00～19:30
定 員：100名
対 象：一般
参 加 費：無料

第124回、第125回防災アカデミー

講演題目：「震災復興と経済」(10/19)
講 演 者：豊田利久氏(神戸大学名誉教授)
講演題目：「巨大地震への備えとしての免震構造」
(10/28)
講 演 者：菊地 優氏(北海道大学教授)



[問い合わせ先]
減災連携研究センター 052-789-3468

10月22日(土)、23日(日)

場 所：博物館(10/22)、
鳳来寺山(愛知県新城市)(10/23)
時 間：13:30～16:30(10/22)、
9:00～16:30(10/23)
定 員：30名
対 象：小学3年生以上、一般
(小学生は保護者同伴)
参 加 費：無料

第51回地球教室ーフィールドセミナーー

「愛知県の石 ピッチストーンってどんな石？」

内 容：「愛知県の石」である松脂岩(しょうしがん 英語でピッチストーン)と呼ばれる岩石について学習し、その主要産地の鳳来寺山に出かける



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

10月29日(土)

場 所：東郷フィールド(附属農場)
農業館(愛知郡東郷町)
時 間：14:00～15:30
対 象：一般
参 加 費：無料

2016年度第2回農場講演会

講演題目：「未来の接ぎ木を考える」
講 演 者：野田口 理孝(理学研究科特任助教)
内 容：接木の可能性を再考し未来の農業へどんな貢献ができるか一緒に考える

[問い合わせ先]
生命農学研究科附属
フィールド科学教育研究センター
東郷フィールド(附属農場)事務室
0561-37-0200

**10月30日(日)、11月5日(土)、
12月17日(土)**

場 所：豊田森林組合、周辺の森林
(豊田市足助町)(10/30)、
株式会社東海木材相互市場
大口市場(丹羽郡大口町)(11/5)、
農学部講義棟3階第1講義室
(12/17)
時 間：10:00～17:00(10/30)、
13:00～17:00(11/5)、
10:30～17:00(12/17)
定 員：30名
対 象：学生、一般
参 加 費：無料

**都市の木質化連続講座「森と街を元気に、
木で豊かなくらしをつくる WOODist の育成」**

講演題目：「森のいまーOur Forestー」(10/30)
「木の文化と可能性ーTimber Cultureー」(11/5)
「これからの森づくりーWoodist makes Woodismー」(12/17)



[問い合わせ先]
生命農学研究科
生物材料工学研究室 052-789-4147

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月31日(月)～1月27日(金)

場 所: 博物館野外観察園
セミナーハウス2階

時 間: 10:00～16:00

休 館 日: 土・日・祝日、

12月29日～1月3日

入 場 料: 無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示 「野外観察園ポスター展」



11月12日(土)

場 所: 理学部南館1階セミナー室

時 間: 13:00～17:00

定 員: 30名

対 象: 高校生以上、一般

参 加 費: 無料

[問い合わせ先]

トランスフォーマティブ生命分子研究所

教授 木下俊則 052-789-4778

植物大解剖！最先端植物研究体験

内 容: 植物の構造、応答、成分や動態の観察、理学部で行われている最先端の植物研究を紹介



11月19日(土)

場 所: ES 総合館1階 ES ホール

時 間: 13:20～16:30

定 員: 200名

対 象: 一般

参 加 費: 無料

第18回まちとすまいの集い「しなやかな人・建築・都市」

講演題目: 「持続可能な緑地管理とそのマンパワーを考える。
—景域管理作業量を測る—」

講 演 者: 清水裕之 (環境学研究科教授)

講演題目: 「しなやかに暮らす」

講 演 者: 久野 寛 (環境学研究科教授)

講演題目: 「建築技術としなやかな回復」

講 演 者: 長江拓也 (減災連携研究センター准教授)

内 容: 建築学で取り扱う「人・建築・都市スケール」の諸問題に対して将来にわたり持続可能な社会を目指し、どのように「しなやか」に向き合い対応していく必要があるのか。計画・意匠・環境・設備・構造・材料の各分野の教員が論じ「しなやか」というテーマから横断的に考える



[問い合わせ先]

環境学研究科建築学教室 052-789-5233

表紙サークル紹介



表紙

愛知こどもの国での
ワークショップ
(宇宙開発チーム NAFT)
(平成28年8月28日)

宇宙開発チーム NAFT

私達 NAFT は、「Link Space ～宇宙を身近に～」をモットーに、ロケット開発、スペースバルーン、そして宇宙教育活動の3つを行っています。現在はそれぞれ、炭素繊維強化プラスチックを用いたハイブリッドロケットの製作と打ち上げ、上空約30kmの空の360°全天周映像とその空を飛ぶ紙飛行機の撮影、そして多くの人々に宇宙を身近に感じてもらい、子供達に夢を与えるためのワークショップや講演会を行っています。常に「宇宙の素晴らしさを多くの人に伝えたい」という思いで活動しています。

名大トピックス No.281 平成28年10月14日発行

編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601) TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>) でもご覧いただけます。

174 濃尾地震と愛知病院・愛知医学校の医療救護活動

名大医学部は、最近では東日本大震災（2011年）、やや古くは伊勢湾台風（1959年）など、災害の際は積極的な医療救護活動に従事してきました。その起源ともいえるのが、125年前の「濃尾地震」に際しての、愛知病院（名大医学部の前身である愛知医学校の病院）の活動です。

濃尾地震は、1891（明治24）年10月28日の早朝に発生した、岐阜県根尾谷（現在の本巣市）を震源とする、マグニチュード推定8.0、日本史上最大、世界でも最大級とされる内陸直下型地震です。震源に近い美濃西部、尾張北部・西部を中心とする被害は甚大であり、死者は岐阜県約5,000人、愛知県約2,500人とされています。

天王崎（現名古屋市中区栄1丁目）にあった愛知病院自体も、4棟の「大破損」をはじめ全棟が損傷し、薬品は壊滅的な被害を受けました。しかし地震発生直後から、熊谷幸之輔医学学校長（病院長を兼ねる）自らが先頭に立ち、

医師や事務員を総動員し、医学校の上級生も動員して、救護活動を開始しました。医学校の校庭にテーブルを並べ、名古屋の陸軍第三師団から借りたテントを張って、夜は蠟燭のあかりを頼りに治療を行いました。

愛知病院は、現名古屋市域のみならず、尾張北部・西部、あるいは岐阜にまで医師や医学生を派遣し、各地に設置された臨時治療所で医療活動を行いました。全壊した大工場として著名な尾張紡績会社（150人を超える死傷者があった）の負傷者の治療にあたったのも愛知病院です。額田郡岡崎町（現岡崎市）の岡崎城跡にあった愛知病院の分院である岡崎支病院も、医師を災害地に派遣しました。

当時の愛知医学校・愛知病院は、同年に「院校払い下げ騒擾」が起こるなど不安定な状況にありました。結果的には、この時の救護活動が、中部地方の中核的医療機関としての存在意義を県民に訴える実践活動にもなったのです。



水重親報す
十月二十八日地震の當日午前七時頃より市民及近村の負傷者陸續治を乞ふ不取敢院外の庭前にて治療に従事し急務を以て不取敢院外は院長始め外科醫員の主事となり内科眼科婦科各科醫員に應援し高坂生徒漸次登校し大に便利を得たり尤も院校家屋大破し各科診察所調劑所も始め各局悉く破損せしに依り屋外に於て急務を執り各局劑は常備の分箱と破損の爲めに失ひ一時不給と告げより後備品及臨時購置品と調劑所の製練とに由り集積の急を補ひたり又全時名古屋西春日井、警察署及尾張紡績會社の請求に應じ高坂生徒四五名宛と一隊となしたる者三隊に救急藥劑帶品等を携帶せしめ名古屋市中を巡行して一時の救急法を爲さしめたり

1	2	3
4	5	

- 1 「愛知病院負傷者治療図」（1891年12月10日発行の『風俗画報』より）。
- 2 愛知病院へ避難した濃尾地震による負傷者たちの写真。
- 3 西春日井郡枇杷島町（現名古屋市西区）の臨時治療所で医療活動を行う好生館。私立病院好生館は、県内では愛知病院と並んで濃尾地震の救護活動に大きく貢献した病院。創立者である横井信之館長は元軍医で、愛知医学校の前身校の校長を務めたこともあった。
- 4 濃尾地震で全壊した尾張紡績の工場。男女合わせて880人もの人々が昼夜二交代で働いていた。
- 5 愛知病院の救護活動を詳しく報じる1891年11月5日の『新愛知』（中日新聞の前身）の記事（一部、マイクロフィルムプリントアウト）。